

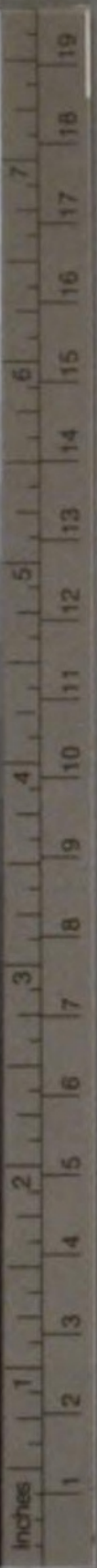
甲陽軍鑑 35冊 WA 32-1



甲陽軍鑑卷第一

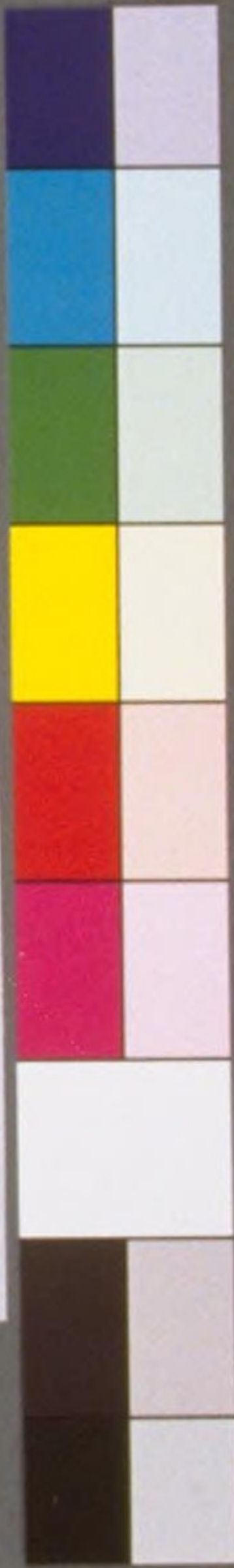
寶書園藏

WA 32
1
1

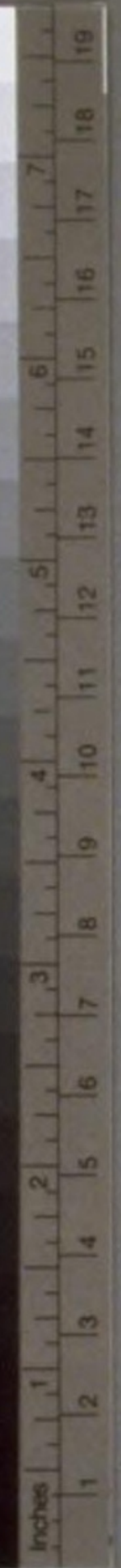


01-001

国立国会図書館



甲陽軍鑑 35冊 WA32-1



01-002



甲陽軍鑑起巻第一

この書物後名はけしきありて

ゆづりのゆづりていつて

とてまゝにゆづりてゆづりて

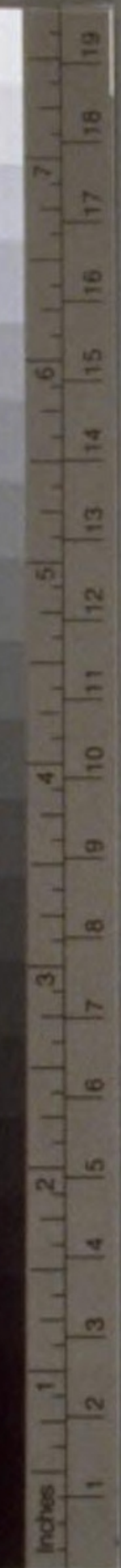
つとてゆづりてゆづりて

ゆづりてゆづりてゆづりて

ゆづりてゆづりてゆづりて

ゆづりてゆづりてゆづりて

ゆづりてゆづりてゆづりて



ら下流のりかきしはるるしとせ

一長崎と宇土のりかきしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

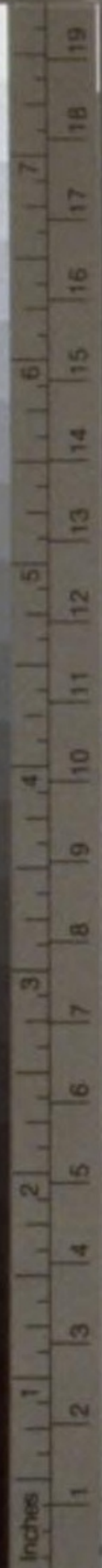
とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ

とせしはるるしとせしはるるしとせ



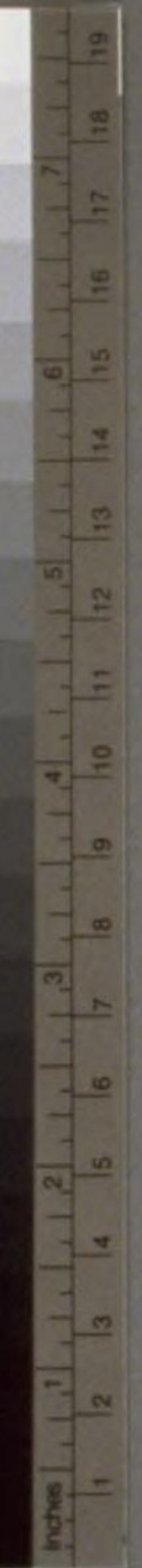
01-004

国立国会図書館

足通もくしん信言ふの事はいかに
あはれはたけりともついでに
おのつらりともいふは
家のおしよ年長より源氏と
くまの家持常門の事くま年長
は行源氏とくまの事くま
そのら源氏とくまの事くま
多くはあともて源氏方より信
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事

くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事
くまの事くまの事くまの事

北九ヶ條ちくまの事くまの事



600-10

甲陽軍鑑巻目録

巻第一

信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり

巻第二

信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり

巻第三

信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり

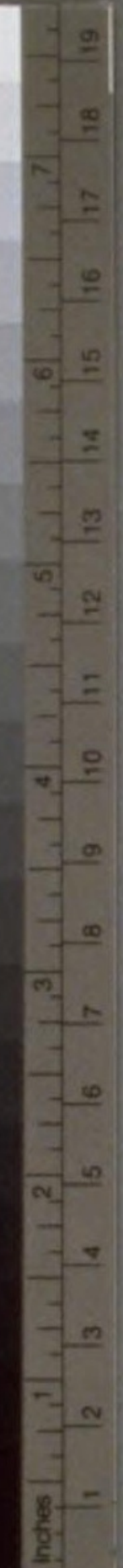
巻第四

信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり

巻第五

信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり
信玄公の甲冑は至五十七ヶ條あり

巻第六



01-010

利根さうりあゆめす

卷中七

よつとさうりあゆめす

卷中八

つとさうりあゆめす

余期のをうれし

卷中九

武さうりあゆめす

治さうりあゆめす

付さうりあゆめす

卷中十

甲列治言云家ちり小龍人好大務す

卷中十一

信言云治一作の事大にれす

甲列やうりあゆめす

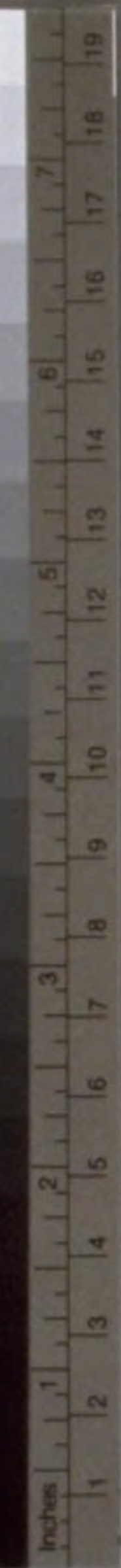
信言云十九年其の事治言に

付治言す一板治言す

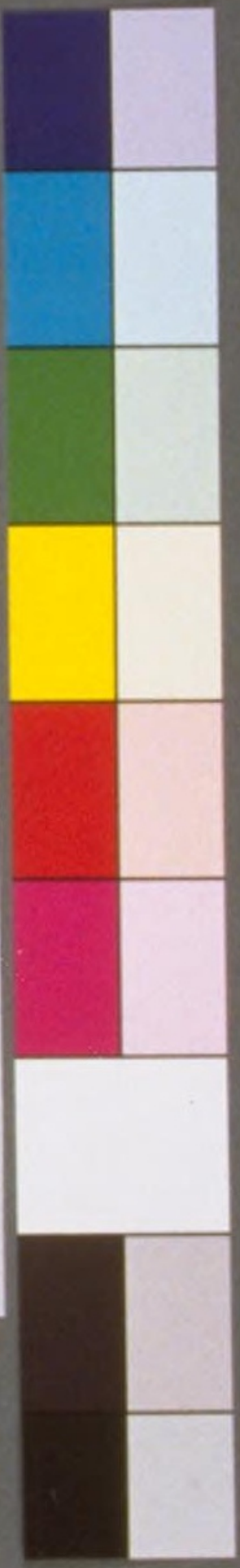
信列さうりあゆめす

甲列こりあゆめす

甲治さうりあゆめす



01-011



信列 到りたる人ありてと申合致す

卷第十四

山平 幼少より 弁ありて人を知る

卷第十五

山平 幼少 四宮 弁 幼少より人を知る

弁 戸石 山平 人を知る

信法 山平 幼少より人を知る

山平 幼少より人を知る

山平 幼少より人を知る

山平 幼少より人を知る

卷第十四

山平 幼少より人を知る

信列 上田 合致す

村 上田 信法より人を知る

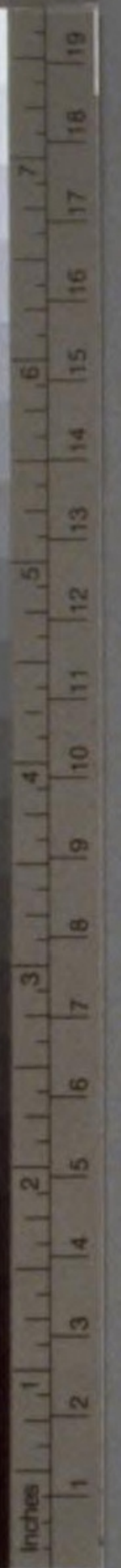
山平 上田 同年 山平 幼少より人を知る

卷第十五

山平 幼少より人を知る

山平 幼少より人を知る

山平 幼少より人を知る





織田信長おだのぶながの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

信州しんしゅうの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

河内かゐの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

氏家うぢやの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

河内かゐの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

卷まき第だい十七じゅうしち

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

河内かゐの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

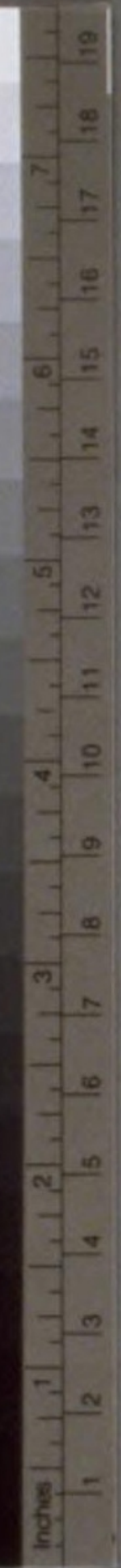
御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき

御書ごがきの御返ごへんの御書ごがきの御返ごへんの御書ごがき



河津村合戦より 日取河津をさるるのみ

はゆゆ言ふことありき

信玄氏康松山城をさす 村竹ありてあり

の事 村竹の居る所の松山城をさす

松山城より向河入道と共ありき

あそく氏は喜作とす 村竹とら康

合戦ありき 知のりありき

信玄より河津の事ありき

卷才十八

信房より信玄へつげ人の事とて上條の事

小橋ありの事ありき

松坂ありの事ありき

あそく氏は喜作とす 村竹ありてあり

あそく氏は喜作とす 村竹ありてあり

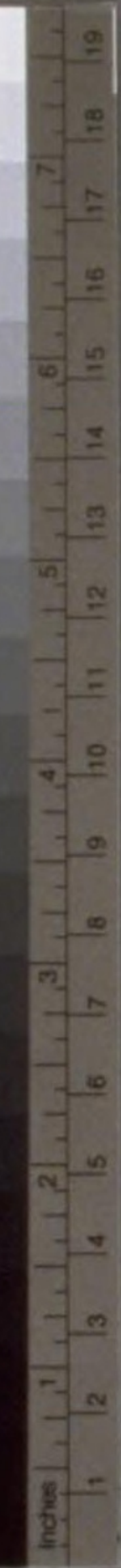
あそく氏は喜作とす 村竹ありてあり

あそく氏は喜作とす 村竹ありてあり

あそく氏は喜作とす 村竹ありてあり

あそく氏は喜作とす 村竹ありてあり

あそく氏は喜作とす 村竹ありてあり



迎岸働のみ

えんやらののみ 村曲祝

川河巻のみ

信玄様頼えんののみ

村河巻しりと物村さし信のみ

信虎公しりお札らのみ

てりしし 和同のりとものみ

村河田十郎と信虎らのみ

和ししと御らぬりししのみ

忠秋のみ

御平お馬のみ

信玄公氏康より信玄らへてり信虎と

口しのみ

信玄公長女お城ののみ

村信巻しり信虎のみ

巻第十九

氏之の信玄中へくつのみ

信玄へ信玄を物并城友へを物し

公中并せりの風 氏康よりえん

幸のののみ 村河信玄をわくし酒

信玄病しんるのみ 氏去りし

村河川城北りのみ 丁の信玄のみ

村河巻しりしのみ

山原氏康より信玄らのみ

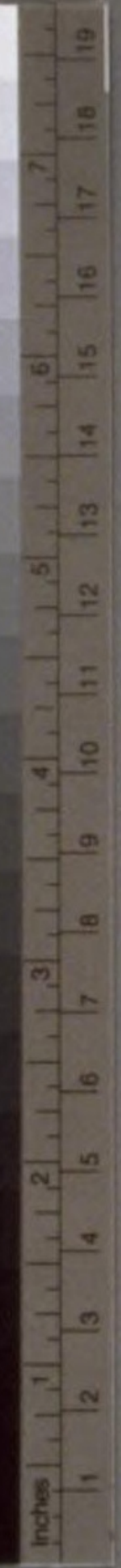


氏やと信玄村陣村馬場とのいひま
 信玄甲野人千人村ら殿十の信玄
 上川の城におのゝ家康かゝり侍次のみ
 氏らゝゝ人再々小田原へまゝ
 村大原まゝいひま

巻才九

信玄出陣十の侍まゝいひま
 村信玄八幡大りいひまいひま
 長原ゝゝゝ小田原ゝゝゝいひま
 村いひまいひまいひま

上原ゝゝいひま 村列陣列是のいひま
 久原ゝゝいひま 村いひま
 村英八幡ゝゝいひま
 長原ゝゝいひま 村いひま
 井原ゝゝいひま
 信玄ゝゝいひま 村交わりのいひま
 巻才九
 氏らゝゝいひま 村らゝゝいひま
 氏らゝゝいひま 村らゝゝいひま



今んらん心はなむしり

家康のてらへく使ふし

解るに申候人出の事

をまらひのみとてしるす

味方なる所

信長より候てしるす

信長とて申す

の言に相らり申す

人ららねの事

信長とて申す

信長とて申す

信長とて申す

信長とて申す

信長とて申す

信長とて申す

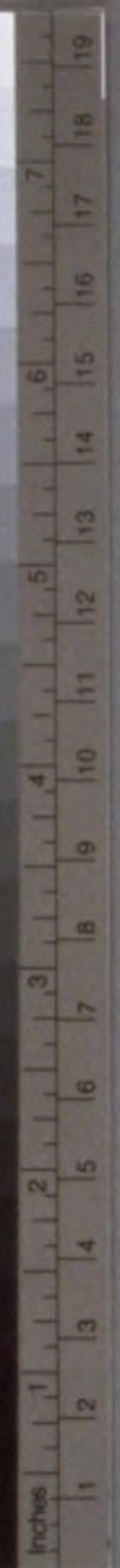
信長とて申す

信長とて申す

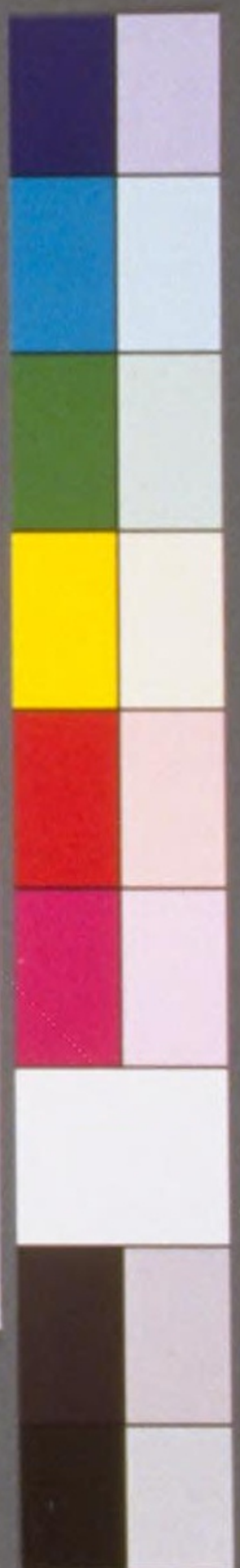
信長とて申す

信長とて申す

信長とて申す



01-019



信玄公の喪中の人らへのまじり

卷第九三

信玄公とくわりの家も成る事

惣の事分別

行わしむる事

卷第九四

信玄公 并家成る物

卷第九五

信玄公の家成る物

卷第九六

軍計の席一ヶ条 は家のえり

分田ヶ條の理

三ヶ条 合致

あつらひ

あつらひ

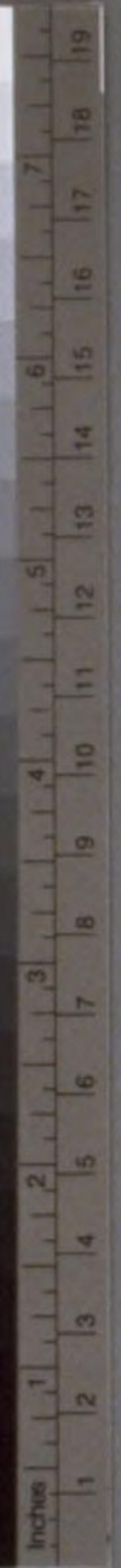
ふら

わ

い

け

得



陣つらのま—

我わが湯ゆのま—

敵たてとりのま—

わらのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

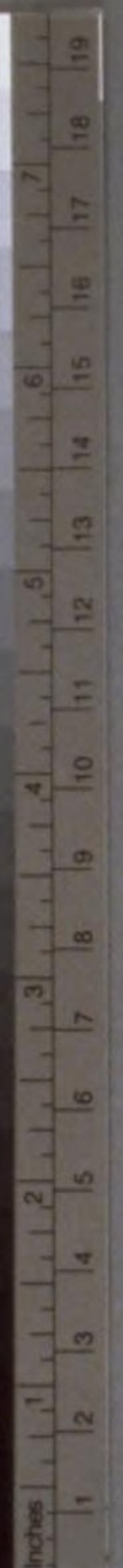
多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—

多おほのま—



01-021

天正元年五月より後村公の任せしめ
高田代と物とをゆきの軍記の中
六年つきの入るより後村公死すの
日抄の部書す

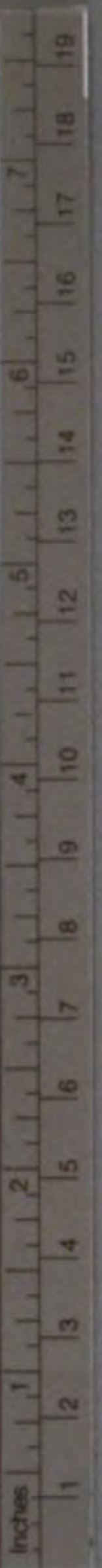
卷第三十

信玄公の代書は好成の事
討陣の時九つ事 城とらるるに
後村公交臂の事 信玄公入つて
すれぬ人の命を事 後村公つ
すれぬ神を事 甲州東方の事

後村公の事 高田代交臂の事
後村公の事 高田代交臂の事
同年ぬと外高成 高田代の事

卷第三十一

のりり信松の事
小田原の事 入るるの事
高田代交臂の事 高田代の事
信玄公の事 高田代の事
高田代交臂の事 高田代の事
高田代交臂の事 高田代の事



卷之五

つ夫作の苗の取らぬ事

掃りのとせ取らぬ事

掃りのとせ取らぬ事

信長家北列後つる事

あつた家をうつりて事

うつりて事

うつりて事

掃りのとせ取らぬ事

あつた家をうつりて事

甲が初所中事

甲の及所中事

うつりて事

卷之五

信長甲列入は事

信長うつりて事

用わりの事

うつりて事

甲が初所中事

信長うつりて事

甲の及所中事



一 國中之地頭人 不申子細 盜種 罪科

一 國中之地頭人 不申子細 盜種 罪科

右 抄 延 永 治 長 年 考 考

考 考 同 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

甲列以家之治所

一 國中之地頭人 不申子細 盜種 罪科

之 績 私 令 沒 收 之 條 甚 自 由 之 到 也

若 犯 科 人 為 賄 信 被 發 者 不 可 有 地

取 之 倚 日 昌 之 事 者 如 下 志 不 可 書 別

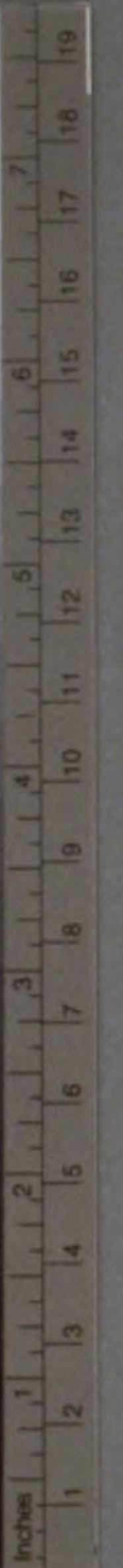
人 年 貢 法 後 亦 比 取 以 速 不 可 書 別

息 地 者 不 及 書 故 次 之 家 并 書 子 資

財 之 事 者 如 定 法 賦 以 下 復 之

一 乙 半 古 抄 沙 汰 湯 江 後 子 以 人 之 和 不

可 致 被 高 況 於 高 着 之 須 哉 焉 又 未



01-026

出沙汰場には、ハシ有者、ハシ津為奉行人之

和不及禁之次

一、不得内領他國は、ハシ遠近法書札事一

向令傳心平但信列立國人為謀畧

一回中通用者、ハシ乞也、ハシ次才也、ハシ若境

目之人、ハシ比直、ハシ古成、ハシ表者不及禁之

次、ハシ他國法後者、ハシ或取所、ハシ以成、ハシ出被友契

均之、ハシ條是、ハシ以テ、ハシ遠犯、ハシ基次、ハシ望下禁之

若、ハシ有者、ハシ此、ハシ名、ハシ草、ハシ有下、ハシ如、ハシ柄、ハシ藏、ハシ也

一、札狼藉田畠之事者、ハシ於、ハシ年、ハシ貢、ハシ地、ハシ者、ハシ下

為、ハシ地、ハシ所、ハシ之、ハシ計、ハシ至、ハシ恩、ハシ地、ハシ者、ハシ以、ハシ下、ハシ知、ハシ下、ハシ定

之、ハシ他、ハシ就、ハシ負、ハシ物、ハシ等、ハシ之、ハシ儀、ハシ者、ハシ以、ハシ合、ハシ限、ハシ下、ハシ有

其、ハシ沙、ハシ汰

一、百姓、ハシ押、ハシ而、ハシ年、ハシ貢、ハシ之、ハシ事、ハシ取、ハシ科、ハシ不、ハシ任、ハシ打、ハシ百

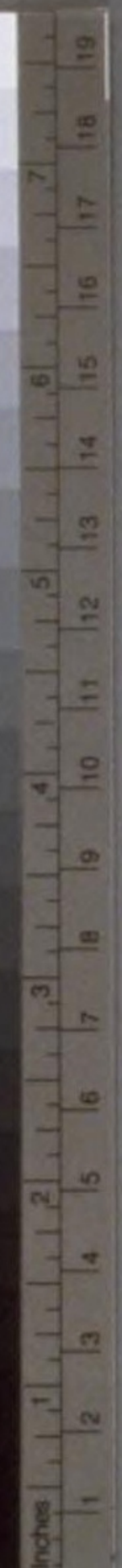
姓、ハシ地、ハシ者、ハシ以、ハシ地、ハシ以、ハシ免、ハシ倍、ハシ下、ハシ令、ハシ不、ハシ替、ハシ若、ハシ有

非、ハシ合、ハシ之、ハシ儀、ハシ者、ハシ以、ハシ據、ハシ使、ハシ下、ハシ改、ハシ之

一、名、ハシ田、ハシ地、ハシ之、ハシ意、ハシ延、ハシ取、ハシ放、ハシ之、ハシ事、ハシ非、ハシ法、ハシ之、ハシ至

也、ハシ但、ハシ有、ハシ年、ハシ貢、ハシ等、ハシ之、ハシ合、ハシ之、ハシ沙、ハシ汰、ハシ刻、ハシ至、ハシ致

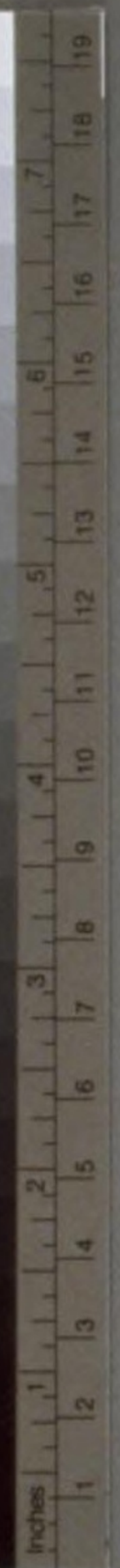
年、ハシ者、ハシ不、ハシ及、ハシ乞、ハシ也



01-027

一山脚之地 飛折起 甲至 傍余 湯境者
 紀月 奉 迄 可 定 之 為 又 依 旧 境 不 及
 分 別 者 可 為 中 分 此 上 有 津 湯 旗
 者 可 分 別 人
 一有地 取 申 者 下 臨 札 之 地 至 捨 作 瓦
 者 是 聖 年 彼 田 地 可 任 地 取 乞 情 下
 者 是 聖 年 彼 田 地 可 任 地 取 乞 情 下
 可 有 別 條 書 又 記 地 取 非 合 者 知 行
 之 日 奉 合 可 上 者 也
 一各 恩 地 之 事 諸 有 自 災 水 旱 之 支 換

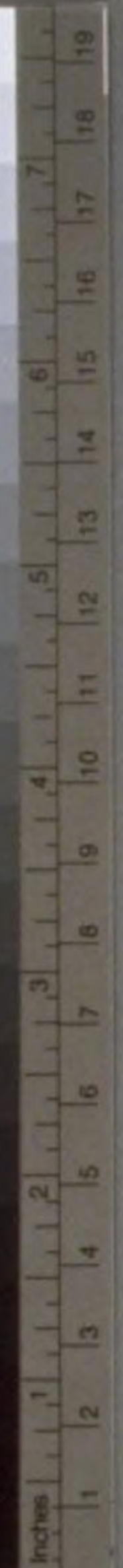
一抱 恩 地 人 天 文 指 年 年 丑 以 未 拾 箇
 年 地 取 支 公 事 尋 七 勒 者 不 及 改 之
 他 及 九 年 者 以 支 神 可 如 下 知
 一私 領 之 名 由 之 外 恩 地 領 七 左 右 合
 治 印 支 停 止 之 年 時 如 此 割 云 振 者
 言 上 子 御 定 年 期 可 令 責 買 之 事
 一百姓 不 出 支 控 津 中 被 發 發 者 彼 至



01-028

其初三十日者可令先許一處而如
 前可出「夫」物失却之事者不及改
 之次「夫」逃電之上乃不商中之人令
 許容者既許經數年雖免「死」科也
 對「夫」云「指」智之人及殺害者其地
 親親被官私合誓約之際運心同前
 但於「于」戰傷之上「否」后忠希致盟約
 一「次」
 一「潘」代之被發他人「る」は之「時」中「見」

合捕之事「停」中「年」以「有」懸「可」得「取」也
 人「主」人「中」傳「相」商之「處」當「以」常之
 上「合」選「電」者「以」自「集」者「壹」人「可」并之
 奴婢「難」人之「事」者「去」其「沙」且「過」指「个」
 年者「任」式「目」不「可」改之
 一「奴」婢「逐」電「以」後「自」然「於」路「取」見「合」款
 乳「高」之「人」中「之」私「宅」口「召」連「事」此「法」
 至「款」先「當」之「人」方「口」下「逐」至「他」依「境」
 遠「去」理「重」延「之」事「立」三「日」占「者」不「可」
 苦「款」

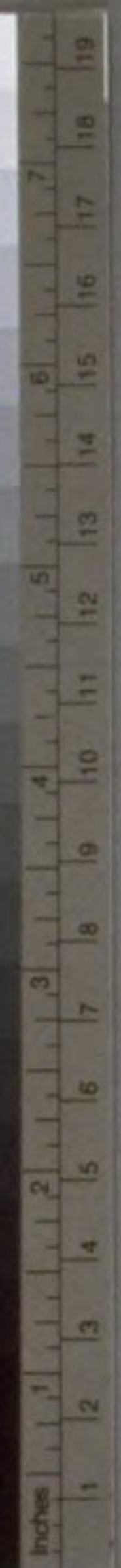


01-029



一 喧嘩之事不及是也不可加威敗也
 取懸於令地志之輩者不可處刑
 然以恩負偏頗令合力強者不淪
 此可止存同罪者不處犯殺害又傷者
 妻子家内之友者不可相遠但犯科
 人令逐電者雖強為不意之強先
 置妻子當守可身子嗣
 一 被友人喧嘩并盜賊等之科不可懸
 主人之事者勿治也治然歎此言否
 之處伴主世科之由頻陳申相抱之

一 軍令逐電者主人之可市三ヶ一可
 沒収云所市者不可處刑死也
 一 去言懸懸寄親事自由之至也如
 至族者自今以後理不盡之儀定也
 一 殊他寄親心合云學限者以解
 一 耽乱軍懸高野牧河狩等事忘武
 道天下我國之上者極法文武具用
 一 不可為所寫
 一 河流之本并橋之事於干木前如



不可致之到干橋者卒死不可返置

一淨土家文日蓮意在于合國不可有
以淨者有取持人者即擅去不可廢飛

科

一被女出仁座席之半一女人宅至之

上者更不可論之括別也我國而論
言無名印而此與之決才也

一在于出以江軍者不可得戒許之象相
論半不決理也收根藉之際也吾越度

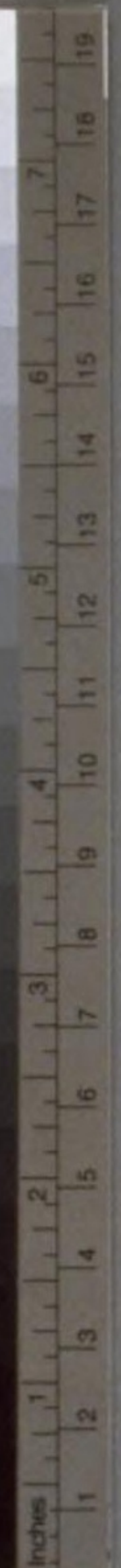
一童部之口湯不及也此欲但兩方之
親不可加制止之虞印而致尊憤者其

又為一世不可有不戒

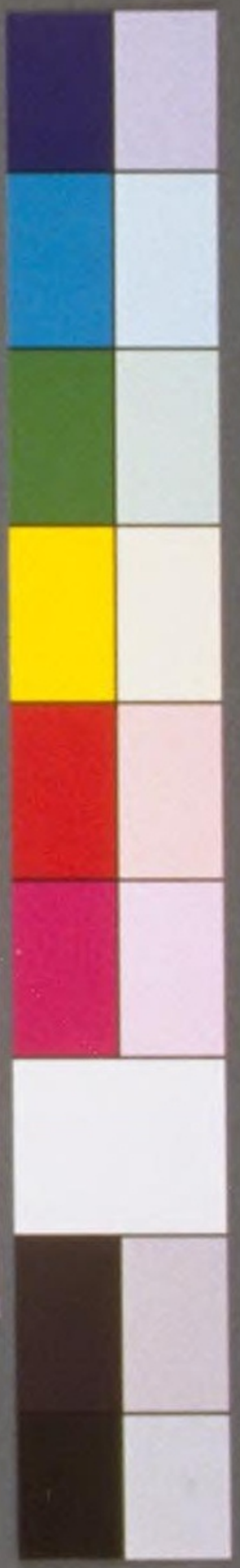
一童部淫殺害朋友等者不可及成敗但
行十三心後之輩者非適其然

一園中養者能別人合沂泊又望他之
寄子之條斬豎豆也自今以始可傳

一自分之沂泊直不可致彼身就寄子
此旨具以載先條



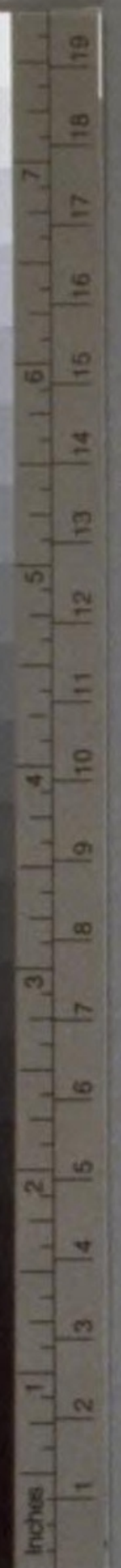
01-031



一其身或他家或賣家國中細細者何
 方也者進而不取棟別法法其身
 一法之云料者其屋敷抱人可
 之他控屋敷江百足内者隨其分
 下有其沙汰自余卿中令一統可
 之收控為他人之屋敷同家屋敷相
 抱付而者不及是此之事
 一棟別他言一向傳心年併或逐電或
 死去之者就有教多及棟別法一倍
 者不披露糾言者以寬宥之儀法其

介留可令先淨

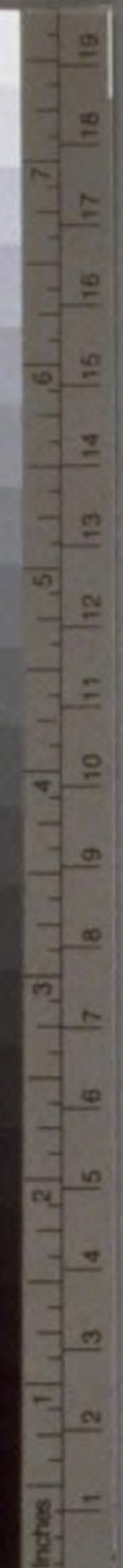
一息黨成敗良之事者不及是此之事
 一川流家之事以新屋下致其候新屋
 者卿中令同心可并洲水候事至
 控向者不及改也付死去跡更者下
 准右
 一借法以度之事云沙江人之田地
 法方相押之更以先札下用之但借
 物至云份者其方以可為着之事
 一因日島守方以書入借物之事可



用先物造り至^ニ簿書簿列^ニ者^ハ了^ル處^ニ凡^ソ科^目
一親之負物其子^ハ了^ル相^ノ決^ス又^ハ勿^ク湯^ヤ子^ノ
之負物親方^ハ了^ル不^レ可^ク然^レ之^ハ但^シ親^ノ借^ル水^ノ
加^ハ業^者者^ハ了^ル有^ル去^リ沙^江江^ノ若^シ又^ハ就^テ于^テ早^也
親^ノ至^レ袍^者去^リ速^ニ除^ク者^ハ造^ル為^ニ通^ル候^子之負^物
物^ハ了^ル相^ノ決^ス一^ノ

一負物人或^ハ或^ハ適^セ也^ハ或^ハ逐^ク電^分國^令
徧^ニ徧^ニ受^テ罪^科不^レ輕^シ也^者打^テ評^客族^者
者^ハ彼^ノ負^物了^ル步^ノ決^ス但^シ賣^ル牙^奴婢^等之^ハ
者^ハ了^ル可^ク任^先例^ニ

一恩濟之^事者^ハ立^テ市^中之^介不^レ了^ル扶^之
一恩地裁^借地^變去^リ被^病不^レ了^ル清^取其^也
一^ハ出^テ不^レ了^ル不^レ相^定若^シ彼^所領^主令^速
電^者以^事時^了有^ル其^沙江^過年^期者^ハ
奉^先例^若依^例言^親于^書置^者恩^後
了^ル可^ク相^勤事^ト
一^ハ逐^電之^人之^田地^取借^取之^方者^ハ年^貢
又^ハ年^貢以^下地^取速^テ了^ル年^決之^事
一^ハ穀^米地^負物^不了^ル懸^之但^シ作^人播^種
言^者限^定年^月了^ル刑^罪科^受



01-034

一負物人有死去者正口入之者名到其

方口可借但之夏

一以連判乾干致借法者若彼人衆之内

令逐電者假法為走人丁并償之

一相當之質物之儀者如一定若過分乞

質物以サ分取之者後法に急約之

期御尔不可沽却利同之劫定到干

云損亡者立三月相得頻加借但共

一負物之令定年期渡田畠人者書加

上貢分量欲令沽却者買人并其地

由主人可相届去其儀上或依折

據主人取放之或有子回地頭改之

時假買人控帶負物人之借物不致

信用

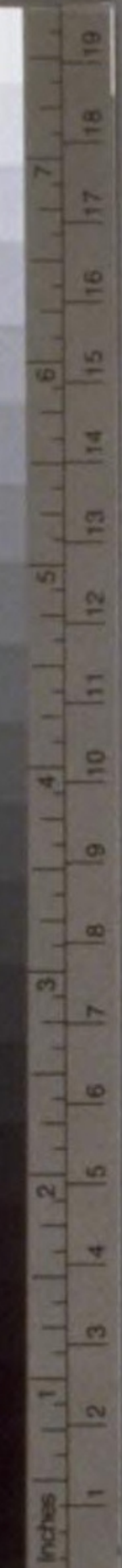
一未法借用之事至一倍者頻可加借但

此上指令能漏者可有過急自地地下

人等借法之處怪不單負物人令無沙

法者不可披露是亦右同前

一歲主乾于逐電者以日記相調至干

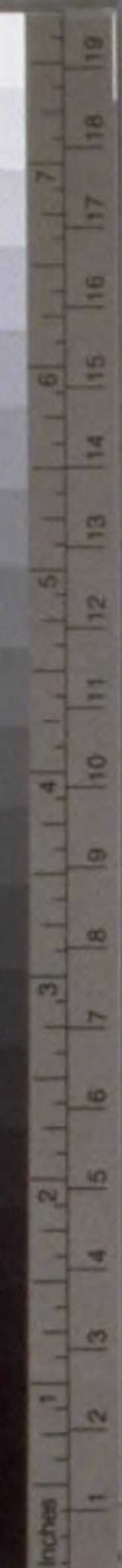


01-035

国立国会図書館

一 濟代被^レ古^レ不^レ廟^レ主人^レ而^レ暮^レ權^レ威^レ於^レ子^レ
 一 稱^レ宜^レ再^レ山^レ伏^レ等^レ之^レ事^レ者^レ不^レ可^レ賴^レ至^レ人^レ
 一 若^レ肖^レ此^レ者^レ分^レ回^レ細^レ可^レ停^レ心^レ也^レ
 一 捨^レ他人^レ之^レ彼^レ官^レ利^レ田^レ畠^レ惠^レ讓^レ与^レ事^レ自^レ
 今^レ以^レ後^レ令^レ停^レ心^レ年^レ但^レ就^レ虫^レ嫡^レ子^レ本^レ主^レ

人^レ者^レ自^レ余^レ之^レ子^レ之^レ夏^レ不^レ能^レ禁^レ制^レ也^レ
 一 百姓^レ年^レ貢^レ丈^レ公^レ事^レ以^レ下^レ云^レ沙^レ河^レ之^レ將^レ
 執^レ質^レ物^レ云^レ其^レ理^レ令^レ分^レ教^レ曉^レ也^レ據^レ之^レ至^レ
 也^レ然^レ而^レ定^レ其^レ月^レ之^レ其^レ期^レ者^レ不^レ及^レ禁^レ心^レ
 一 晴^レ信^レ於^レ行^レ儀^レ其^レ外^レ之^レ法^レ交^レ以^レ下^レ有^レ旨^レ
 趣^レ相^レ遠^レ事^レ者^レ不^レ堪^レ責^レ也^レ以^レ目^レ安^レ可^レ申^レ
 依^レ時^レ宜^レ可^レ其^レ寬^レ憐^レ者^レ也^レ右^レ五^レ拾^レ五^レ條^レ
 者^レ天文^レ十^レ六^レ打^レ六^レ月^レ定^レ至^レ年^レ又^レ過^レ而^レ二^レ个^レ
 除^レ者^レ天文^レ二^レ十^レ三^レ甲^レ五^レ月^レ定^レ之^レ
 一 定^レ子^レ期^レ田^レ畠^レ限^レ移^レ年^レ以^レ教^レ成^レ令^レ清^レ取^レ

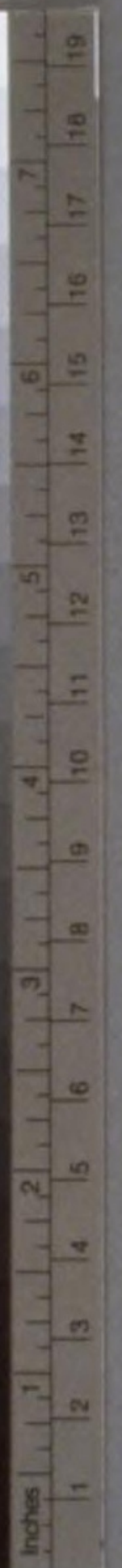


01-036

国立国会図書館

彼王依貧困於于資用者行加拾
 年可相得也其期者下任買人心自
 余之年期之積者可下准右
 一百姓有隱田者逢經教拾年任地領
 之見問可改之必者百姓有中旨者
 及對決行以不分明者遺言拾使可
 定之若地乳有乳分下有其色急矣
 天地之間有万物万物中有異名
 此曰人倫人倫有日業立常也六藝
 也不下不習父法傳子德記具武田信

警有文有武有禮有義諱其世子而
 福長老敏而好孝如玉未入盤如雅
 脫囊技之而不倦誨以九十九件之
 昂目矣寬年賢滿蓋之諶孟母斷梳
 之戒豈遠及不常淘身具隆於國家
 幸獲於子孫中也印之而通生則運
 乾坤於掌握通古今於胸中不亦通
 乎吁不也也卷而和云下其唯此一箇
 矣大矣哉到矣哉作時 永祿元年 戊
 葵寅中野龍山子謹誌



01-037

甲陽軍鑑 弟二 治力不同

一 奉對屋形極盡未來不可有違意事

論語云造次必於是顛沛必於是

云及君能致其力

一 於戰場柳不可為未陳及

吳子曰必生則死必死則生

一 云油以行義不可替事

史記云其身正則不令行其身不正則

令不從

一 武勇不可替事

三 畧云唐將下云弱也

一 每道不可虛言及

神說云清死心直一旦依怕終費日月之

憐甘但武畧之時者不可依時宜歎

孟子曰得志者而擊之虛

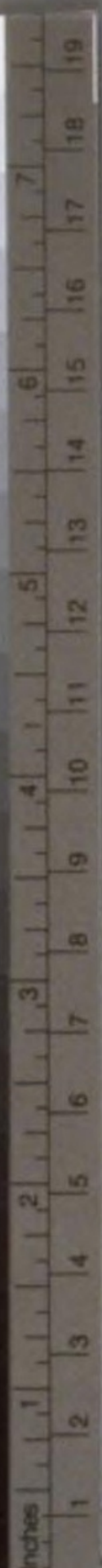
一 對父母柳不可不存事

論語云事父母能為其力

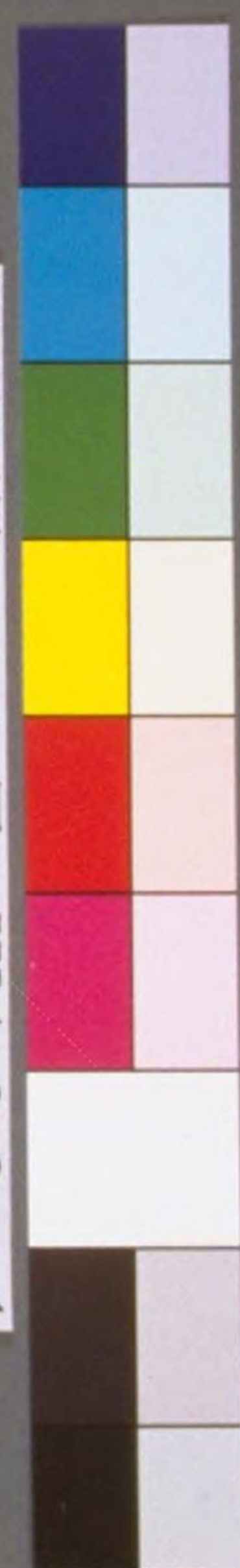
一 對兄弟柳不可不替畧

後漢云兄弟在右年也

一 不相當力伴儀一言不可出治及



01-038





意杭云人出一言知其长短

一 封治人不可後為事 付 行信童女

貪者亦治人不可殷勤事

礼記云人有礼则女去礼则危

一 行馬之嗜肝也

論語云攻乎異端斯害而已

一 子文不可油之事

論語云子不思則困思不及則殆

一 新道不可卷也

物之不可卷也

一 治礼去油不可卷也

論語云孔子入大庙每事问

一 凡流不可过之中

史記云有禮則亂樂極則怨

左傳云高女好毒不可不思

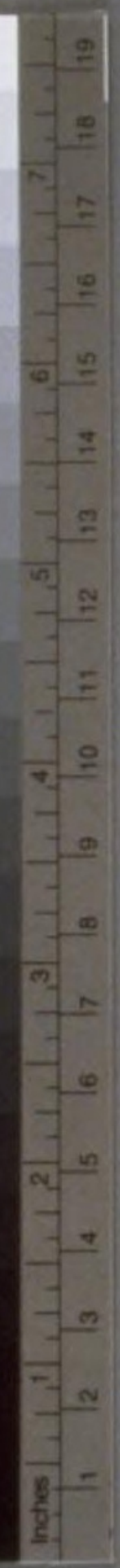
又治云賢賢為色

一 射野身方不可味也

論語云朋友交言不信哉

一 每夏更志之二字不可懸意更

右治云德下能小辱也成信印中印也



又云一頓怒失其身存

一大烟受去不可遠月御下知受

水烟方日之器

一知行并不可望御台力事

此云云功多不教之為禍之禁也

一不可俺言難法受

右流云負而云論富而云驕

一對家中之節遠意出肝要之事

三畧云使民如四反

一家未之者冠落之時能降造化入候一途

不可加ト加受

軍藏云思士如湯

一忠節居不可忘受

三畧云善惡同則切居俵

一障人者不可許容但以際密同届脱

味尤受

語云奉直錯法抑則民服

一畧見之儀不可遠肖之受

古流云良策若一口利在病忠言通耳利

於行亦尚書云不從從則正君從諫

則聖也

一家書之者、其非云、免悟、死干不便、七種

一、此下如、公の事

云、不如、一事、計、種、之、穀、不如、十年、計

種、本、不如、一期、計、之、人

一、以、自、面、用、所、不可、裏、御、門、出、入、更

活、之、父、子、不、同、席、男、女、不、同、席

一、於、朋、友、被、滿、心、之、務、任、道、可、上、曉、事

活、之、於、會、活、不、遠、也

一、每、日、出、仕、不、可、懈、怠、更

活、之、行、有、條、力、則、以、子、父、分、出、仕、特、先、至、人、至、所、去、後、具、以、て、春

年、竟、下、在、我、座、敷、見、合、所、要、し、事

活、之、三、日、不、相、見、莫、為、舊、時、看、況、於

子、子、哉

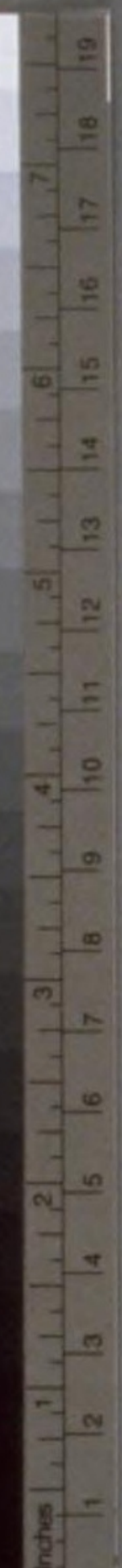
一、活、之、深、知、音、於、人、不、可、妄、報、活、更

活、之、三、思、一、言、九、思、一、行

一、參、禪、可、上、覺、更

云、參、禪、別、去、秘、決、只、思、生、死、切

一、何、時、歸、宿、時、者、先、以、可、遣、使、者、自、往



01-041

則聖也

一家事之為共非云克悟死干不便也

高一性了如公口事

云不如一事計種之穀不如十年計

種本不如一期計之入

一以自面用所不可裏御門出入更

活之父子不同席男女不同席

一於朋友被滿心之務仁道可上味也

活云活合活不遠也

一每日出仕不可懈怠更

活云行有條力則以子文

分出はく時先五人並所書後具にて春

午竟下在秋座敷見合行要し

活云三日不相見莫為舊時看況於

君子哉

一活為深知音於人不可妄報活更

活云三思一言九思一行

一參禪可上味更

云參禪別去秘決只思生死切

一何時歸宿時者先可遣使者自送



01-042

留^ル守^ス之^ノ書^シ衆^ニ行^キ儀^ト守^ト由^ニ斬^ル之^ノ初^ニ折^ル檻^ト

雖^カ爾^モ亦^モ以^テ細^ク復^シ弘^ク明^ク者^ト云^フ際^ニ限^ル歟

云^フ不^レ教^ム而^モ殺^ス云^フ逆^ト

一^ニ屋^ヤ秋^{アキ}橋^{ハシ}如^ク何^カ橋^ト云^フ曲^ク降^ル漸^ニ擬^シ信^ト不^レ可^ク

逆^ト悽^ク更^ニ

云^フ无^レ降^ル不^レ為^ル若^シ臣^ト心^ヲ不^レ可^ク不^レ為^ル臣^ト

亦^モ云^フ遠^ク鹿^ノ者^ト不^レ見^ル山^ト

又^モ云^フ為^レ下^ニ矣^ト討^ル上^ニ

一^ニ召^ス使^メ者^ト折^ル檻^ト更^ニ小^ク科^ノ之^ノ時^ニ下^ニ滅^ス及^テ太^ク科^ノ則^チ身^ヲ碎^レ之^ノ破^レ滅^ス云^フ能^ク更^ニ

大^ニ公^ト曰^ク兩^ノ葉^ヲ不^レ去^ル將^テ用^シ斧^ヲ折^ル也^ト
身^ヲ但^シ以^テ小^ク科^ノ帶^ト及^テ折^ル檻^ト則^チ依^テ抗^ス下^ニ

退^ク屈^ス始^メ

召^ス氏^ト春^ニ秋^ニ云^フ令^レ奇^ト則^チ不^レ聽^ル禁^ム多^ク則^チ

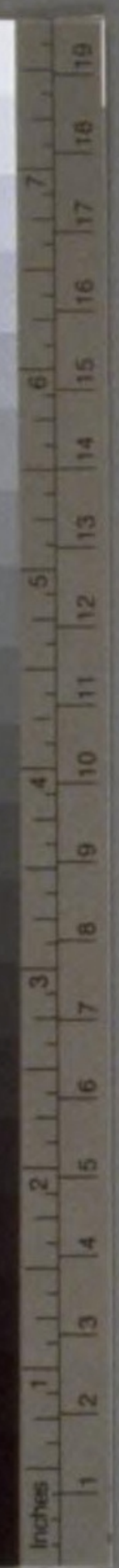
不^レ行^ク

一^ニ褒^ム券^ヲ之^ノ才^ヲ不^レ依^テ大^ニ細^ク則^チ下^ニ感^ス更^ニ

一^ニ自^ラ他^ノ國^ノ之^ノ動^ク行^ク善^ク惡^ク共^ニ入^ル精^ニ具^ス下^ニ國^ノ廟^ト

云^フ事^ハ不^レ師^シ古^ノ邦^ニ以^テ長^ク久^ク

一^ニ對^シ百^ノ姓^ト定^ム所^ヲ務^ム之^ノ外^ニ不^レ可^ク下^ニ為^ル北^ノ分^ト事^ト



01-043

年歳云々 上行唐則下急 討賊飲重

敵刑罰云々 極民相殘賊

一封他家人家中之患 更怒之不可治更

云 好事不出門 惡事行千里

碧巖云 家醜莫向外揚

一人召使極依其器量用所可申付事

古語云 良匠不捨材 上將不棄士

一武具云 懈急不可誘更

一談云 九層之臺 起於累土 一出陣之期 一日不可緩 大將之跡也

一清云 國清則民安 國亂則民危

一不可入馬精更

一清云 大以守禁馬 以作首德養人

一高也

一敵味方打向時 味定備所不可擊事

清云 能勝敵者 云秋勝

一軍之將 不可遠懸 更

一軍之法云 遠奔不隨列 是以不亂軍 臨

固不失行列之政 不施人馬之力



一 至勝軍者不立足可上策押付但敵之

用場不崩者備可持直事

三略云我如几叢

一 軍出外則人衆亮不拍故者士卒移

擊掠者也 司馬法云少威而柔則

如水之弱人押而玩之多威而剛

如火之熱人望畏之

一 敵多將弁備去外控人者不可活宜

信莫 三男云 委使辨士活洗敵者

一 湯平對敵方不可道息口者

治云可起蝦蟇押奪迅成龍

一 腹淨為心安親類被官不可見柔弱

之趣更

三略云吾勇則 吏士不思

一 條已進退業不可更

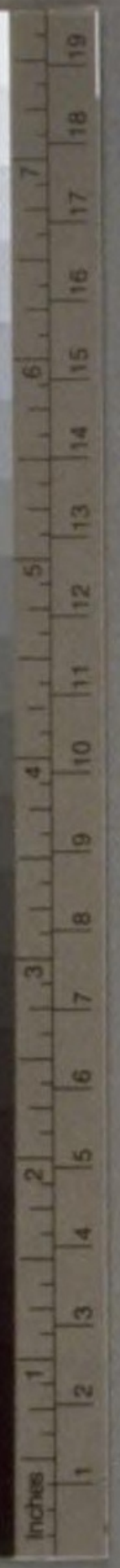
治云如多功而不成不性何得如

亦云 色利不及

一 於敵沖擊不虛 將周中道求格外道

路而不可搬更

治云明修棧道暗渡陳倉



01-045

一大方之術 人身作去不知之趣 埃搜

出那及路

活云 好交不着云

一家來者 活云 一旦 誤信 此明而後能干

直覺 悟者 隨之 不可 悔還交

活云 常潔 以道 又其 潔 不習 性也

一父云 覺活 故活 成敗 其子 所作 而行

抽忠 切者 不可 敬 勢之 交

活云 耕牛 子 驛 且 角 逢 款 不用 山川

喜合吉活

一人 數 振 振 子 和 敵 破 敵 隨 敵 分 別 肝

要交 三界云 因敵 將化

一每 交 中 儀 較 不可 為 交

活云 善子 云 所 爭 必 也 射 乎

一善 惡 可 能 正 事

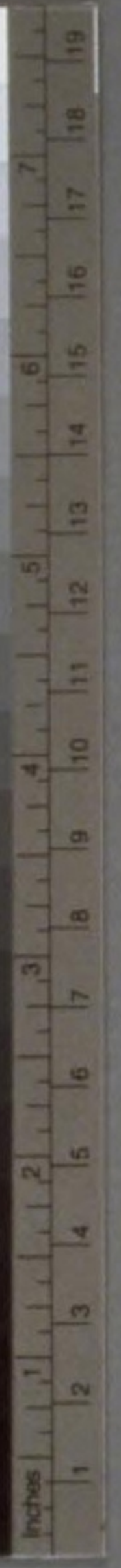
三界云 廢 一善 則 衆 善 衰 意 一 惡 則

衆 惡 歸

一食物 到來 之時 眼前 因 候 之 衆 少 死

下 配 合 交

三界云 昔日 良將 用 兵 有 饋 草 膠 者



01-046

使役諸河与士卒因流飲

一每篇云功作而難為立身復更

云千里行從一步始

一對貴人服使役有于万道理強不

可申更云多言害身

一過不可爭自今以後嗜肝膏更

後云過則勿悖改亦云過而不改是

謂過矣

一淺有深思立儀祀云條儀異見者可
任其意更

信云信進義言不可微

一貴賤共不可務老者更

古語云敬一老如父母

一出勤時食物服夜中泛陣屋准今合

敵振出立打掃と少不可油以事

云云為為城由斯為敵

一不可進竹无行義人之言

史記云不知其人視其友

亦云人中則賞矣觸賤花中寫古名
華香

一條不可入人心之書

三略云三軍之禍不過狐疑

一不可批列人之過

洛云如夏與他

一嫉妬之咎望不可申

云緩望川賊媒而塞粉川媒

一不可傷人之心

軍議云傷人出上軍皆詔

一召之時不可遲冬之書

詔云君命召則不俟駕行

一武畧其外隱密之傳不可泄言

易云其機不密則害成

史記云事以密成語以泄敗

一吏乞不可加情

尚書云德惟善政政在養民

一佛神不可信

云佛心叶則得々添力以攝心勝人則

不露而亡

傳云神者不享祀

一味方及敗軍者一不可探

穀梁傳云善陳者不致善戰者不死

一不可取合解狂之族夏

侯書云丙吉為魚相御史解歐其車

吉不責也

一不可人之具負偏劇事

者經云天地不為一物枉其時日月不

為一物晦其明也

明王不為一人枉其法

一用利劍聊不可常沈刀也

云鈍刀不截骨

一宿其外步行之時付前後危右心不

可油斷事

巨軋云事不慎者取敗之道也

一取人之命受智不可有之受

三畧云法國家安家得人也亡國破家

失人ヤ

一德居之時不可假其子之刀受

碧岩云柳標橋搭不顧人直入千峰

可峰去亦云把毛非來莫辨我字

世穿鑿不相同

一鴉鷹道遠又不可條就妨諸涼云春

公之基也

詔云終日走紅塵不識自家珍

一見物之時忘自他不可油以事

活云識取均用意莫認定般星

一對不人定契凡兩時可憐既更

活云使民以時

一千人徒向敵百人撲入可然之可

古活云千人推門一人不如投一團

一吾逢卿之換極不可難法更

孝義卷

亦古活云毫釐有差天地懸隔

一兵法理方之秘術等サシ、誰不知知

候極巧成不吾心持數多有之更

古活云因得九鼎重見後一毫輕

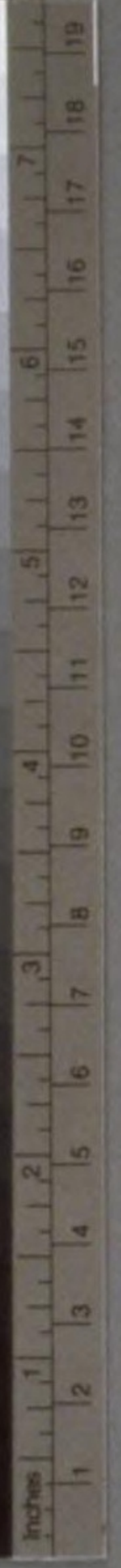
一下々之批判終く少廟緹如何極脈

候共保忠以陰密可又事

云才力相似魯急參差

一鄉歸陣之砌片時不可懈先

活云恬淡行始



01-050

一 德別如何 極以 德切 假共 御裏 向 白 部

不可立人更

誘之 進米 亦 進墨 黑

一 於人 亦 食物 并 賣買 難法 亦 立 為 更

之 令 以 火 試 人 以 言 試

右 派 之 貪 他 一 盈 而 失 却 滿 船 忽

一 不可立其 德 意 更

語 之 无 子 周 不 比 小 人 比 亦 周

一 服 降 為 真 个 交 媿 乱 非 法 不 可 為 若

人 申 懸 者 不 立 目 極 下 立 其 虛 更

深 之 用 畫 自 已 心 失 被 他 人 口

一 於 人 亦 亦 不 可 為 肯 活 更

戰 國 策 云 其 善 下 當 其 惡 亦 下 活

一 手 跡 不 嗜 更

云 三 代 遺 直 云 過 翰 墨

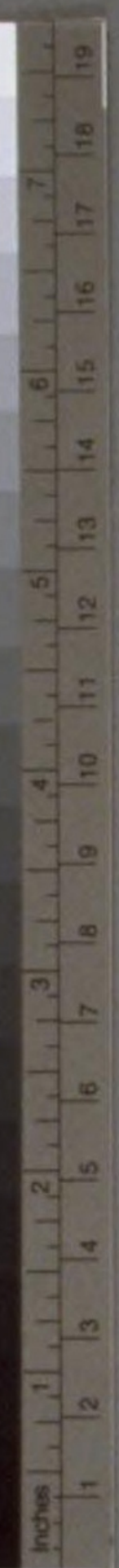
一 内 外 之 儀 一 方 者 以 自 力 成 一 方 者

可 以 知 行 調 兩 方 共 以 知 行 効 者 必

不 為 不 足 更

云 善 行 者 不 奉 變 足

亦 云 春 色 甚 了 下 范 枝 自 隨 長



一級 治為多 皆為厚者 不可擊 亦治為少

衆後厚者 不可思 急之也

無書云 莫伐棠之陳 莫遠正之 旌伐

之如卒 然卒然者 常山純也 伐首則

尾至 伐尾則首至 伐中則首尾共至

伐之有法

一也 儀兵而攻 莫得之 形不可起 居動

釋之

語云 君子不重則不威

一每事不可不也 以之

論語云 吾日三省吾身

行 視徒在 支婦一所 聊不可忘 日半

云 殺人曰活人 劊

亦行 用器 類 弄 兩手之 垢不可執 人

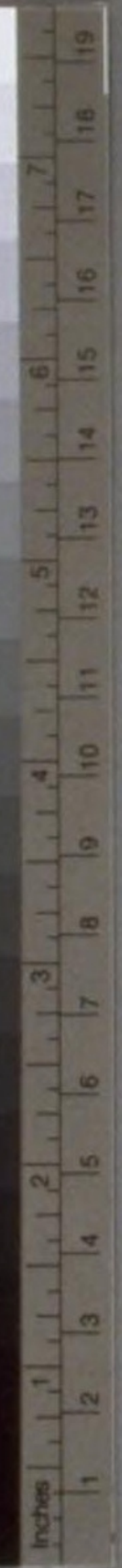
之也

亦不斬 不可不也 挑 權 變

一每事不可不也 退 屈 變 象之 純 也

孟子曰 駁之 不僕者 象之 純 也

多言 漫 宣 他人 耳 寧 言 不 姓 生 之 書



二五十八 廿二 廿七 八
信玄家御書口焼了
此六之字

永祿元年 戊午

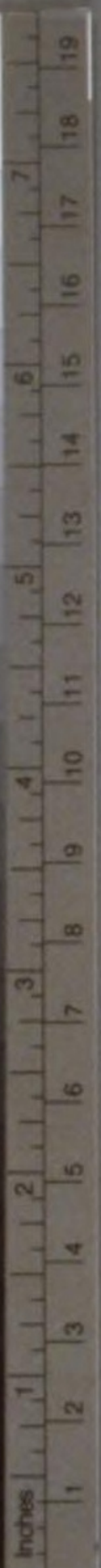
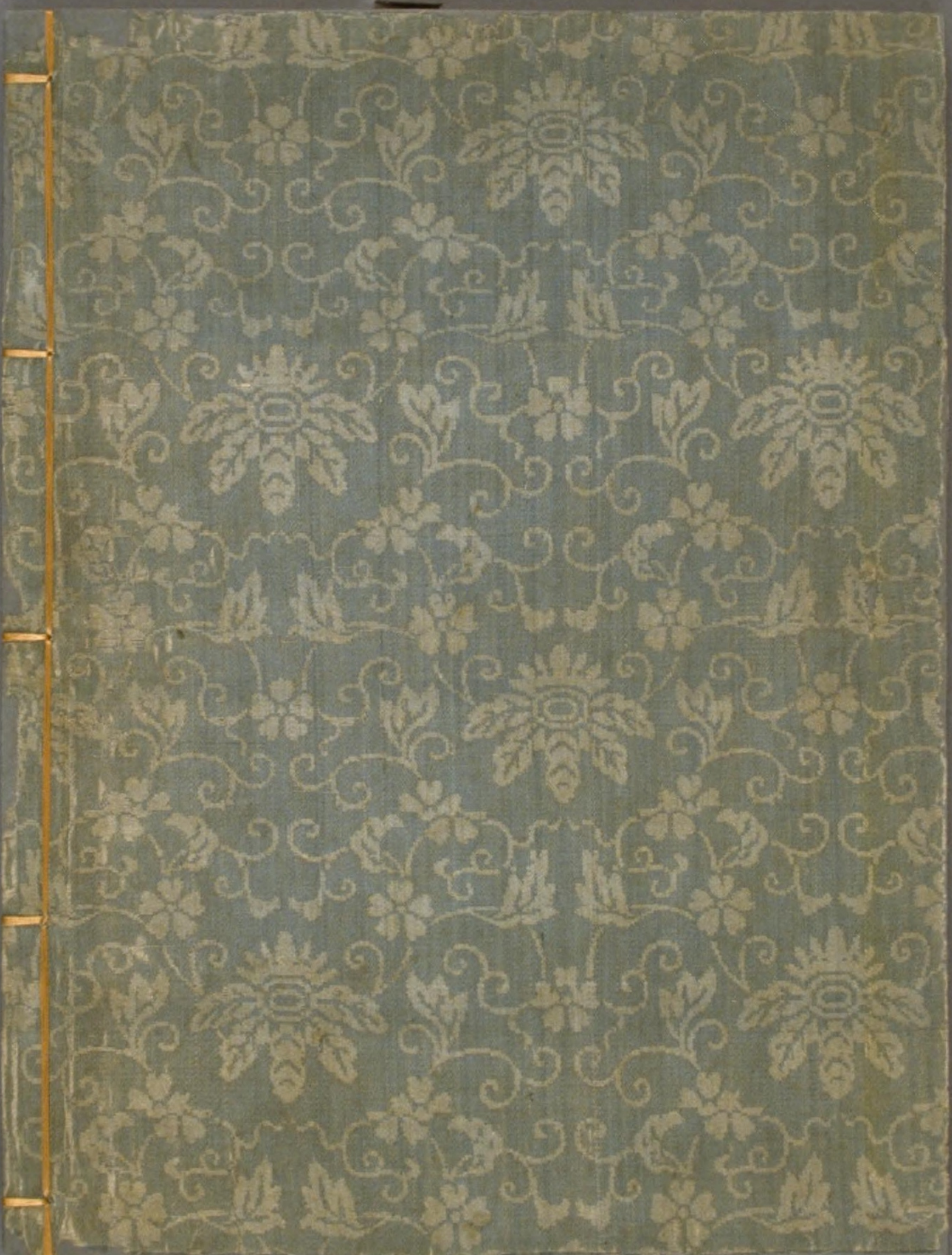
卯月吉日

長九

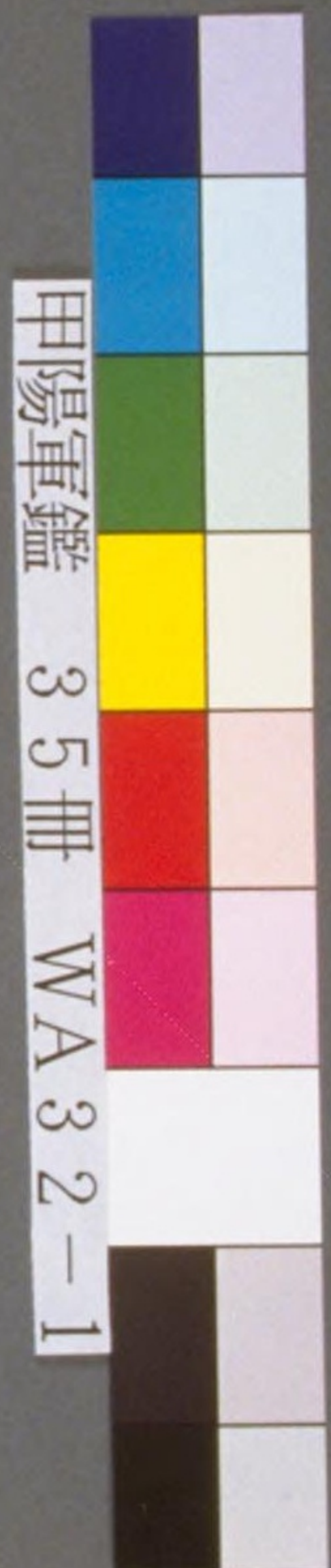
武田タケダ元馬モトウマ助タケ

信繁ノブヒサ在列

01-053



01-054



甲陽軍鑑 35冊 WA32-1